

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	世田谷区豪徳寺 1-34-2
園名	豪徳寺保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

いいこと考えた！！「すまいる畑」からの発見 広がる興味

<テーマの設定理由>

少し狭い園庭のど真ん中に、子ども達が名付けてくれた「すまいる畑」がある。四季折々のカラフルな草花や栽培物が植えられ保育園のシンボルになっている。以前は花を無造作に摘んで、しおれた花が園庭に落ちていることがしばしばあったが、花を摘んで食卓に飾り付けたり、遊び用の花を選別し色水や押し花などで楽しんだりするうちに、生きている花を大切に作る気持ちが育まれてきている。また自然物が身近になり遊びや生活に取り入れることで、自然の不思議さ、命の大切さ、なんだろうと調べる探求心に繋がっている。今年度は2年目となるので“ねっこたね”に注目し、探求を深めていく。

2. 活動スケジュール

- 1回(4,5,6月) “ねっこたね”のつながり
～種からどうやって花が咲く？ 植物の一生～ たんぽぽの一生ゲームを作る。
- 2回(7,8,9月) “たね”をうえてみよう
～いろいろな種、種ってどんなところにあるの？～ 種探し、種取り、種を集め、種植え。
- 3回(10月～) “おいもってたねなの？”
～さつまいもほりて気付いた おいもの種はどこだ？～ さつまいも、じゃがいもを育てる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 1回 散歩で摘んできた色々なたんぽぽ、図鑑、摘んできたタンポポを挿す紙コップ、台紙
- 2回 いろいろな種、新聞紙、ポット、土
- 3回 掘ってきたさつまいも、芽が出たじゃがいも、植木鉢、土

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① ・散歩の際、遊歩道にたくさんたんぽぽが咲いていることに気づき、観察、採集をする。
- ② ・様々な種を戸外遊びや散歩先で見つける。
・給食で出た果物に種があることに気づき、取っておいて育てることにする。
- ③ ・さつまいも掘りで感じた疑問をクラスに持ち帰り、実験してみる。
(さつまいも、じゃがいもの栽培、観察)

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ① 「いろいろなたんぽぽがあるけれどどれが始まり？」との保育士の投げかけに、「種が付いている、これじゃない?」「黄色い花からどうやって種になるの?」「種は土に埋まっているんだよ」つぼみ、花、綿毛、様々な時期のたんぽぽを見ながら、子ども同士の会話の中で話が展開していった。その後、様々な時期のたんぽぽを採集し、一本一本を紙コップに分けて入れ、クラスで観察をする。近くには、たんぽぽについて書かれている絵本や植物図鑑を置いておく。ページを開いて調べる姿もあれば、日が経つごとに変化するたんぽぽの成長、一生に気付く姿があり、“たんぽぽの一生クイズ”が始まった。
- ② カラスノエンドウ→さやの中に種が入っており、種を取り出す際、弾け飛んで面白い。種が出た後のさやはクルクルとねじれる。
・ムクロジ→種の周りは皮で覆われており、べたべたしている。水の中に入れて、かき混ぜると泡が立つ。種は黒くて丸くてとても固い。周りに少し毛が生えている。
・オシロイバナ→小さく凸凹した黒い種を割ると白い粉が出てくる。
など種の観察やその特性に興味関心を持った。
そんな中で、給食に出たスイカ、メロン、ミカン、カボチャなどの種を植えてみることにした。
- ③ ・収穫したさつまいもがどうなるか観察したが気候の関係もあり、発芽せずにおれてしまった。そんなタイミングで「うちのじゃがいもから芽が出た!」と言って、園児が保育園にじゃがいもを持ってきてくれた。水に入れると腐ってしまったので土の中に埋めて様子を見る。すると、白かった芽が緑になり、葉が出てくる。もしかしたら、じゃがいもは“種”なのでは、と子どもたちから声上がる。今までの経験から葉が出た後に花が咲き、花が咲いた後に実がなると予想したが、じゃがいもは土の中で育つことを知っている子どもたちはどこで花を咲かすのか、疑問を感じたようであった。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ① ・こちらからの投げかけだけではなく、散歩に出て子どもたちが春の自然に触れたことで疑問が生まれ、観察が始まった。
 - ・部屋に常に置いておくことで、好きな時間に自由に観察できたことで、細かな変化に気付くことができた。
 - ・図鑑だけでなく、実際にたんぼぼの生長の流れを目にしたことで、より実感がわいた様子。知識として得たものを保護者にクイズを出すなどして伝える姿があった。
- ② ・種を見つけることは“宝探しのよう”だと子どもたちは興味を持って、種を探し観察をした。一粒の種から100個も200個も花が咲き、実ができるようになったことで“種=宝”というイメージができていった。
 - ・給食でた、果物や野菜の種を植えた。育てば「たくさん果物が食べられるね」と種から実がなるといった生長の過程を理解し、期待を持って種を植える姿があった。
 - ・種の採集、観察、生育をすることで自然と自然物が遊びの中に取り入れ、なんでも植えてみようとして試してみる姿が多く見られた。
- ③ ・さつまいも掘りでは、沢山のもの収穫を喜んだが、同時に今までの取り組みからその生長過程にも興味や関心を向ける様子があった。夏にはメロン、スイカ、かぼちゃなどの種を植え、収穫まではいかなかったものの、発芽し、つるが伸び、花が咲くまでを観察することができた経験が疑問に繋がったのだと思う。

